

群馬県立桐生工業高等学校(全日制) 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	達成度 総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	1 生徒の85%以上が、各教科の特色を活かした教育活動に満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業や少人数指導、授業改善を効果的に実施する。 学校外の機関(企業や大学等)と連携し、特色ある教育活動を行う。 地域貢献・地域交流を積極的に推進する。 全生徒が、在学中にインターンシップに参加する。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートより満足度は84.9%とやや例年と比べると下がった。少人数指導を充実させるなど、より一層各教科の特色を活かした教育活動を模索した。 また、ICTを活用した授業なども展開することができたが、来年度の入学生より、BYODとなっていくので、さらなる利活用を模索していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観では、生徒が活き活きと学習活動に取り組んでいる様子を見ることができた。習熟度別授業や少人数授業、ICTを活用した授業をさらに推進し、地域で活躍する生徒を育ててほしい。 文化部やものづくりコンテスト等での活躍に加え、運動部にも成果がでてきている。今後期待したい。 すばらしい学習成果発表会であった。保護者や地域の方々にも公開してもらいたい。
		2 生徒の80%以上が、自分の学校が好きだと感じている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、委員会、部活動等を活性化させ、生徒の自主的な活動を支援する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の学校が好きだ」と感じている生徒が85.1%であった。コロナが5類に移行し、平素な教育活動が徐々に戻ってきた。新しい行事なども設定し、自己肯定感を持つことができたのではないかと考える。 	
	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	3 複数の資格取得、各種コンテスト等にチャレンジした生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に目標を持たせ、放課後などを利用し、資格取得、各種コンテストに向けた指導を実施する。 ジュニアマイスター顕彰へのチャレンジを推奨する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資格、各種コンテスト等に挑戦した生徒が85.8%いた。今年度も具体的数値目標を達成することができた。現状より向上させるには、資格取得のための設備の充実、今以上の指導者および生徒の学習時間の確保(部活動との両立)等の改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得を取得できたことで生徒が自信を持てることだと思う。資格を活用して地域産業を支えられるような人材を育成へと繋げてほしい。
		4 クロームブックを活用した学習指導に満足していると感じている生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 普通教科はもちろん、実習科目においても活用できるフォームやマイクロソフト365など具体的な使用方法を教師側に情報提供をする。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果より、生徒・保護者ともに約85%が満足しているという結果だった。各教科担当がGoogleフォームやJamboard等を使い、クロムブックを有効使用した結果だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築甲子園やものづくりコンテスト、和装デザインコンテストなどで優秀な成績を取めた。今後も生徒への指導に注力してほしい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 基礎的な技術の習得を充実させていますか。	5 職員の80%以上が、全ての生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、授業の中で計画的・継続的に実施し、生徒が目標を達成できるよう授業の工夫を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員を対象とした学校評価アンケートを実施して、授業改善に取り組む。 職員相互の授業参観等を行い、授業改善に取り組む。(学びのイノベーション) 生徒を対象とした授業アンケートを年2回実施し、授業改善を充実させる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のための授業参観や保護者用の授業参観などを企画し、主体的に対話的な授業展開が行われていた。また、ICT教材などを活用した深い学びを実現するためのスキルを身につけていた。また、新しい評価については、職員同士で情報を共有し、より良いものを作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや授業にICT機器を活用するのは、現代では必要不可欠であり、業務改善にも繋がることであるので、利活用していきたい。
		6 実験・実習において、指導された技能が身についたと感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> レポート・作品等の学習による成果物を点検し、不十分な内容については再指導を行うなど、修得の向上に務める。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケート結果から93%以上の生徒が身につけていると答えている。保護者の評価も87%を超えている。教職員の評価はより高い目標を実現したいとの思いから80%を切っているが、来年度は教職員側も80%w超えるよう指導の工夫をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業人となった場合、プレゼン力がないものが売れない時代である。生徒のプレゼン力を育成できる指導をしてほしい。
	4 生徒は確かな学力を身につけていますか。	7 生徒の70%以上が、進路目標に向けて、確かな学力を身につけていると感じている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が進路実現を達成するために必要とされる学習内容を明確にし支援することによって、学習意欲の向上を図る。 生徒の可能性を引き出すために、ICTを使用した個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケート結果から87.5%以上の生徒が、進路目標に向けて、求められている学力を身に付けられていると回答している。引き続き、進路実現に向けて確かな学力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自身を認められることで成長しているのを感じることができた。今後も、生徒一人一人に目を配り見守りながら成長させていってほしい。
		8 学校生活に困難を抱える生徒を早期に発見し、適切な指導を行うことで不適応な状況に陥る生徒を出さないよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議・運営委員会において問題を抱える生徒に関する情報交換をする。 スクールカウンセラーの活用やアンケート調査にて、状況を正確に把握する。 定例会議(生徒指導、教育相談、学年会、学科会議)を通して分掌内・分掌間の共通理解を図るとともに、問題発生時の早期対応に努める。 当番制による毎朝のあいさつ運動を行うとともに、遅刻防止を呼びかけ、生徒の意識向上を図る。 生活改善週間を設定し、生徒登校時及び始業前の指導を全職員で行う。 各クラスの担任・副担任・学年付補助職員を設定し、組織での指導体制を定着化させる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員の共通認識や連絡・報告・相談は87%と体制がとれており、情報交換やチーム対応も良好である。保護者への積極的なコミュニケーションも97%の職員が心掛けており良好である。生徒から職員やSCへの相談のしやすさは約69%と良好。いろいろなアンケートをオンライン化し、迅速な対応がなされている。今後はさらに相談しやすい雰囲気づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なアンケートの実施や職員間での情報共有などを行っていることで、いじめ認知件数は少ないと聞いた。多感な生徒たちをしっかり指導し、いじめの未然防止に努めてほしい。また、社会では上司などから厳しく指導される場面もあるので、心の強い生徒を育ててほしい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	9 学校生活において、あいさつの励行、マナーの遵守ができていない生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室、マナーアップ運動を通して安全教育を徹底する。 交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。 自転車整備点検を保護者にも依頼し家庭での交通安全意識を啓発する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員による生徒の生活習慣改善への取組は95%で良好。生徒の挨拶励行は94%で、保護者も生徒のあいさつ励行が進んでいると歓迎している。今年度から駐輪場でのあいさつ指導も行って、よりきめ細かな指導を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校へ行くとき生徒から挨拶をしてもらえる。社会では常識であるため、今後も挨拶指導やマナー指導などを続けてほしい。
		10 防災避難訓練を年1回実施し、目的を理解し、安全管理や危機管理を考え、その重要性を感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 地震や火災対応の避難訓練だけでなく、土砂災害や浸水等気象災害も考える機会をつくる。 安全点検による危険、破損箇所を修繕していく。 	B		B	<ul style="list-style-type: none"> 校舎の老朽化に伴い、今後危険箇所、破損箇所の増加が見込まれるので安全点検で早期発見に努めたい。 避難訓練については、当日のシナリオを細かく立案し安全迅速な避難や係職員ごとの訓練も実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通ルール・マナーを遵守している生徒は多いようだが交通事故件数は一定数あると聞いた。生徒の命を守るべく交通指導を続けてほしい。
		11 交通安全を心掛けている生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室、マナーアップ運動を通して安全教育を徹底する。 交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。 自転車整備点検を保護者にも依頼し家庭での交通安全意識を啓発する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室、マナーアップ運動を通して安全教育を徹底する。 交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。 自転車整備点検を保護者にも依頼し家庭での交通安全意識を啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症が5類に移行後、学校行事等は積極的に行われている生徒は多いと安心した。文化祭はたいへん盛況であった。生徒が充実した学校生活を送れるように、学校行事も積極的に実施して欲しい。
		12 いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	<ul style="list-style-type: none"> 桐工いじめ防止対策基本方針及び別表について職員、生徒、保護者について周知徹底し、未然防止に努める。 職員間で生徒情報を共有し、職員がいじめの兆候を見逃さないようにする。 いじめを把握した際には、組織的な対応を図る。 職員研修を実施し、いじめの正確な認知と組織的な対応について法律に基づいた知識を身につける。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ認知件数は5件である。生徒からの相談にも迅速に対応でき、いじめ防止への取り組みを職員は95%が積極的に評価している。オンラインのアンケート結果はほぼ現状を表していると考えられいじめの少なさが確認できた。引き続き啓発活動や職員への研修を続けていきたい。 	
7 積極的な生徒会活動が行われていますか。	13 生徒主体の生徒会行事が活発に行われ、生徒の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員の意見を尊重し、生徒主体の行事運営ができるようにする。 生徒会掲示板、ホームページ(生徒会ページ)を充実させる。 各行事においてアンケートを実施し実態に沿った計画をたてる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事に満足した生徒が87.7%であり一定の成果は残すことができ、特に6年ぶりの開催となった工謳祭は早期の計画・準備により無事に開催することができた。より生徒主体の活動ができるような施策を進めていきたい。 		
		14 部活動、愛好会等で活動している生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 新入生の入部と、2・3年生の途中入部を促す。 部活動の試合結果などを、生徒会掲示板および学校ホームページを通じて報告する。 	D	D	D	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の入部率が51.5%と前年より約20%減となった。中学時代にコロナ禍であった影響もあるかと思われるが新入生歓迎会や各部の広報活動をより充実させ部活動の意義や魅力を発信していきたい。 	
	15 一日の遅刻者・早退者・欠席者数が、全体の3%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席、早退者への家庭連絡を徹底し、保護者の理解と協力を得る。 遅刻の多い生徒との面談を実施し、本人の意識を改善するよう努める。 不登校傾向の生徒に対しては、教育相談係、スクールカウンセラーと担任等が協力して相談にのる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 一日の遅刻者・早退者・欠席者数が、全体の3%以下であり目標達成である。生徒は93%遅刻・早退・欠席防止に積極的に取り組んでおり、職員や保護者の意識も高い。 		
8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	16 体力向上、健康増進に取り組んでいる生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や部活動、行事を通して生徒自らが体力向上、健康増進を図るよう促す。 生徒会や生徒保健委員会、学校医等と連携し生徒の健康意識を高める工夫をする。 健康観察を定期的に発信し、感染症予防の意識を高める。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種活動、行事等で精力的に感染症予防への広報活動を展開し、意識を高めた。特に文化祭では、保健委員が巡回を徹底し、大過なく活動を終えた。時期を捉えた保健だよりを活用し、生徒の健康意識向上に努めた。 		
		17 保健だよりについて、健康的な生活に役立っていると感じている生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 色彩や配列を工夫し、見やすくわかりやすい内容を心掛ける事により、生徒の健康意識を高める。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の85%が保健だよりを健康な生活に役立っていると回答した。今後も意識向上に努めたい。 	

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	18 進路講話や進路ガイダンスが進路選択に役立つと思う生徒や保護者、職員が90%以上である。	・進路講話は、学年進行に従いながら生徒の発達段階に即した内容を提供するよう心掛ける。従来の業者任せのガイダンスの中身を見直し、進路講話と連動した内容に近づける。結果として自らが動いて進路を研究しようとする意識が高まるような指導を模索する。	B	B	B	・あてはまる、だいたいあてはまるがそれぞれ約90%であった。生徒自身が自分にはまだ知らないことがたくさんあるということに気が付き、もっと調べてみたいという気持ちを持たせることが重要であると感じた。地元企業や上級学校に対する理解を広げるとともに、入学後の早い段階から進路先の研究を進めようとする意識が高まるよう、関係機関との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路が現時点でほぼ決定していると聞き安心した。地元就職し地域を支えている卒業生もたくさんいる。これからも進路指導をきめ細かく行ってほしい。 ・インターンシップには地域も協力できるように働きかけたいので、積極的に実施をして生徒の職業観等を養ってもらいたい。 ・求人数はたいへん多いと聞いた。ICT機器を使用し、家庭で求人票を閲覧できるよう工夫していただけたのは良いことである。保護者の意見も聞きながら、更に進路指導を充実させてほしい。
	10 適切な勤労観・職業観を育てていますか。	19 インターンシップを実施する科が50%以上である。 20 インターンシップに参加した生徒のうち満足している生徒が、90%以上である。	・積極的に企業と連携しインターンシップ受入先を確保する。 ・実施できた場合は、生徒とインターンシップの受け入れ先のマッチングに配慮する。 ・事前・事後指導をしっかりと行い、インターンシップの目的や意義を確実に理解させる。 ・実施できなかった生徒に対しては代替指導し、その成果について検証する。	A	A	A	・実施した科は100%となり、コロナ禍で実施できなかった時期を経て、正常な学びの機会が得られた。専門性に依拠した企業をさらに開拓する。 ・よかったと回答した生徒の割合は具体的数値項目に届かなかった。よくなかったと回答した生徒の職業観が悪いわけではないので、就きたい職業、就ける職業、適性がある職業など多面的な捉え方をして今後の指導に生かしたい。	
	11 適切な進路情報を提供していますか。	21 進路指導部が発信する最新の進路情報を90%以上の生徒・保護者が満足している。	・情報過多に陥らぬよう他部署からの情報発信の量にも気を配りながら、Classroomやメール連絡網などを通して、求人票や指定校以外の情報発信も随時行っていく。	B	B	B	・生徒の評価は約90%だったが、保護者の評価は約70%と低かった。Handy進路指導室の導入により、家庭においても求人票をじっくり比較検討し、検索する環境が整ったが、保護者への周知が完全ではなかったかと考えられる。必要な時期に十分な情報が発信できる態勢を整え、生徒・保護者への案内を周知徹底する。	
	12 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	22 具体的な進路希望先が挙げられ、進路実現までの手順と準備について十分理解し、実現に向けて最善を尽くしていると感じている生徒や保護者、職員が90%以上である。	・就職や進学の見込みをスケジュールを生徒がきちんと把握し、自分は今どこまで進んでいるのか、いつまでに何をすべきかなど、その都度自己点検していけるよう、HRや行事等において様々な働きかけを行う。結果として早い時期から進路実現に向けた取組を始めようとする意識が高まるような指導を模索する。	B	B	B	・早い時期からオープンキャンパスに参加するなど、行動する生徒は限られており、全体としては十分な進路活動が行えているとは言えない。今後も各学年に応じた内容で進路ガイダンスや講話等を設定し、進路意識を高めるきっかけの一つとなればと期待している。進路関係書類の提出においては、特に誓約事項に関する説明を丁寧に行う。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	13 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	23 本校の教育活動について、保護者や家庭の方々の70%以上が関心を持っている。	・学校の教育活動や成果等の情報発信を強化し、ホームページの充実を図る。 ・学校行事の様子などを迅速にアップロードする。 ・中学生をより強く意識したコンテンツのアップロードを行う。	A		A	・ホームページによって学校の様子が分かりやすく感じる割合が、生徒90%、保護者80%であった。引き続き、学校行事等の様子をタイムリーにアップしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を積極的に行っているようだが、なかなか地域には情報が拡散されていない。地区の回覧板などでの協力はできるので、学校魅力を発信できるよう広報活動を充実させてほしい。
		24 授業公開(2学期実施予定)に満足できるが60%以上である。	・保護者アンケートの結果を授業改善に生かすとともに、授業公開の実施時期や方法についても検討を加える。	A		A	・90.9%が満足しており目標値に到達した。次年度に引き継ぎたい。	
		25 PTA総会やマナーアップ運動などの行事や企画等に参加している保護者が50%以上である。	・今年度は、11月に工誼祭(文化祭)の実施が予定されており、長らく学校から遠ざかりがちであった保護者の学校行事へのまたとない参画の機会が訪れる。楽しく有意義な思い出を作り、また、次年度以降に引き継げるようにしっかりと規格を練りたい。	A		A	・工誼祭での成果については予想以上であった。PTA役員会の他に積極的に話し合いの機会を設けて、PTA企画の内容の充実へと取り組んだ。開会式や閉会式にも積極的に参加し、学校全体の動きの把握に努めていた。	
		26 学習活動や学校行事に、主体的に取り組むことができた生徒が70%以上である。	地域の教育資源を活用し、インターンシップ等を実施するなどの学習活動を充実させる。また、学校行事等を活性化させることで、主体的に考え、判断し、行動できる人材の育成を図る。	A	A	A	・文化祭をはじめ計画していた学校行事を実施することができ、生徒が主体的に活動し、活気のある学校生活を送ることができた。また、地域企業の協力によるインターンシップや地域の教育資源を活用した専門学科講師による講演会等を実施することができた。来年度も今年度同様に活動していきたい。	
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した指導を行っていますか。	27 chromebookを使い授業等で活用している生徒が80%以上である。	・導入されたchromebookを使い、調べ学習や学習課題の提出の手段として活用させる。	A	A	A	・教科別に活用方法は異なるが、十分な活用がされている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を各教科で工夫しながら活用しているようだ。来年度の入学生からはBYODとなると聞いたが、利用環境を整えて今まで同様に、教科指導やアンケート、情報共有等で活用してもらいたい。
	15 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	28 chromebookを使いアンケートや授業の課題提出等にて活用している生徒が70%以上である。	・classroom等でアンケートなどの回収や課題提出において活用し、集計の省力化や用紙の節約を図る。	A	A	A	・アンケートや連絡事項等の活用を行っている	